

[セッション I]

「先住民運動としてのエコツーリズムータイ北部山地民カレンの戦略的な自己表象」

須永和博(獨協大学専任講師)

本発表は、タイ北部の山地少数民族カレンの人々が、エコツーリズムという観光実践に関わっていく過程で生じる、様々な文化的・社会的実践の様相について報告する。

タイ北部のカレンは、従来、中央集権的な森林政策のなかでは「無知な森林破壊者」として周辺化され、森林利用をめぐる公共空間から排除されてきたが、近年NGOなどの支援を受けながら、彼らの山川草木に関する「在地の知恵」を「環境保護を含むもの」として外部に主張することで、慣習的森林利用権を求める運動を行なっている。こうしたなかで、エコツーリズムは「在地の知恵」を外部に向けて発信する重要なアリーナとなりつつある。本発表で特に注目するのは、本来は身体化され、状況依存的な「在地の知恵」を、より普遍的な環境主義の言説に翻訳することで外部者に提示するカレンの人々の実践である。こうした節合・翻訳の実践は、森林利用をめぐるオルタナティブな公共空間を作りだすことを可能にし、他方では「カレンとは何か」を問い直す自己成型の過程ともなっている。

以上のように、本発表は、エコツーリズムが、カレンの人々にとり、ヘゲモニックな支配的な言説に抗するオルタナティブな言説を構築し、新たな自己成型を行なうアリーナとなっている点に着目し、先住民運動としてのエコツーリズムの可能性について考える。